

生活保護抑制の末吉元北九州市長

財務省が参与に起用

元北九州市長の末吉興一氏が1日付で財務省参与に起用されました。財務省は「20年間の市長経験や外務省・内閣府の参与など幅広い経験を踏まえ、大所高所からご意見をいただくため」としており、20年間の市長経験を評価してのもので

す。末吉氏といえは、市長時代に悪名をとどろかせた、「北九州方式」といわれる生活保護受給抑制策によって3年連続で餓死者を出したことで知られています。

▽2005年、68歳

の男性が餓死。3度にわたり生活保護申請をしようとしたのに、連絡の取れない長女に扶養の確認をとるよう求め申請書を渡さず▽06年、56歳の身体障害者の男性が餓死。電気、ガス、水道が止まり、衰弱していることを把握しながら申請書を渡さず▽07年7月、52歳の男性が、「おにぎりが食べたい」と日記に残し餓死。4月に保護の辞退を強要されていた。

こうした事態を生んだのが、生活保護の申請、開始、廃止件数の目標を立て、徹底して

申請させない「闇の北九州方式」です。本来、申請意思が示されれば受け付けなければなりません。同市では、末吉市政時代の1998年に管理職の業績目標制度が導入され、ボーナスなどに反映されていきました。福祉事務所の現場では保護件数が増える

と「肩身の狭い思い」になる状況でした。末吉氏は、保護件数の「目標管理はしていない」と否定。生活保護行政も「適正だった」として誤りを認めませんでした。しかし、市長交代後

の同市の生活保護行政検証委員会の報告書は、「数値目標」の存在は否定しきれない

「職員を縛っている」と認めました。

一方で、末吉市長はコンテナターミナル、豪華な橋など大型開発にお金をつぎ込みました。

安倍政権が生活保護費を大幅に削減しようとするいま、餓死を頻発させた行政に無反省な人物が財務省参与と

して国政のアドバイザになることは、政権の姿勢を示すものとして見すごせません。

同氏は、麻生太郎氏が外相のときに財務省参与になり、麻生政権時に内閣官房参与、今回、麻生財務相のもとで財務省参与となりました。こうした起用のあり方も問われます。